

あわ が じん じゃ ち ょ く し も ん
76. 粟鹿神社勅使門

■ 指定日

昭和47年4月1日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

■ 所在地

朝来市山東町粟鹿

■ 所有者

粟鹿神社



■ 内容

粟鹿神社にある。その昔、勅使参向の節に開閉したと伝えられる。

切妻造りの四脚門形式。建材の大部分はケヤキであり、屋根は桧皮葺であったが先年銅版葺となった。柱は、上下に粽を施して礎盤の上に立っている。柱上の組物・中備えの三斗詰組・海老紅梁・木鼻などは唐様の手法を示している。本柱間の両開きの唐戸は、透かし彫りの欄間をつけ、羽目板には鳳凰を刻むなど手間を尽くした模様が今もうかがえる。頭貫には簡単な若草模様がみえる。このように全体的には唐様であるが、妻梁を受ける本柱からの挿肘木は天竺様の手法で注目に値する。

神社の文献などは焼失しており、建立年代その他を明確にすることはできないが、当勅使門は度々の災禍も免れたと伝えられ、当地方における数少ない遺構の一つである。

粟鹿神社は、但馬一の宮、または二の宮といわれ、天平9年(737)の但馬国正税帳にもその名のみえる由緒正しい古社である。